



## 第126回テーマ 文化遺産としての 六甲山ホテル旧館

- 建物の歴史と背景
- 建物のデザイン上の特徴
- 設計者古塚 正治のこと



六甲山ホテル旧館正面

実施日：平成28年6月18日（土）  
午前10時～15時00分  
場所：六甲山自然保護センター、  
記念碑台・散歩道



講師：笠原 一人さんプロフィール  
1970年（昭45）、灘区出身・在住。  
1998年京都市芸繊維大学大学院博士  
課程修了。2010-11年オランダ・デル  
フト工科大学客員研究員。近代建築  
史・建築保存再生論専攻。日本建築学  
会近畿支部近代建築部会主査。  
DOCOMOMO Japan 幹事。住宅遺産トラ  
スト関西理事。

### 六甲山ホテル旧館の外観を見学した

午前の記念碑台は20℃で晴れ、  
行楽日和です。15名が環境整備  
でササ刈り。17名は散歩道を回  
遊し、六甲山ホテルの旧館を訪れ  
ました。外観を観察し、六甲山事  
情に詳しい森地 一夫氏から、写  
真パネルで解説いただきました。  
午後は43名が参加しました



森地さんから解説

### 宝塚ホテル・六甲山ホテル旧館の保存を提言

今年の2月に新聞紙上で、日本  
建築学会近畿支部が六甲山ホテル  
旧館の保存の要望書を阪急・阪神  
ホールディングスや神戸市などに  
出されていることを知りました。  
早速、建築学会の事務局に講師  
派遣をお問い合わせし、中心人物の  
笠原さんをご紹介いただきました。  
笠原さんは建築史の研究者で、  
地元の灘区にお住まいです。建築  
遺産の保存・維持に、力を注いで  
おられます。今回は、六甲山ホテ  
ル旧館の素晴らしさに脚光を当て  
たお話をお願いしました。



保存の要望が大きく報道された

### 地域遺産を見直して保存することを啓発された

笠原さんは宝塚ホテルや六甲山ホテル旧館の保存を提起さ  
れています。午後の講演は「文化遺産としての六甲山ホテル  
旧館」をテーマに、体系的にお話いただきました。まず、昭  
和初期の六甲山をめぐる阪急と阪神の争いを紐解いて説明さ  
れました。六甲山ホテルの建設、ケーブルやロープウェイ、  
山上道路の開発、六甲山開発の勢いと熱気が伝わりました。  
続いて、六甲山ホテルの建築的特徴を詳しく説明されまし  
た。スイスやドイツなどヨーロッパの山岳地帯に見られる伝  
統的な建物の様式に基づいて、時代の流行のデザインも取り  
入れていること。専門家の目から見た外観や内装の特徴など  
を写真で詳しく解説されました。

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：神戸県民センター、灘区役所、神戸市教育委員会

旧館を建築した古塚 正治は阪  
神電鉄勤務後、早稲田大学に入り、  
宮内省勤務という経歴を持つ、阪  
神間で活躍した優れた建築家で、  
宝塚ホテル本館など数々の名建築  
を残しました。

1929年建設の六甲山ホテルは山  
小屋風のホテルの先駆で、同時代  
の上高地ホテルや雲仙観光ホテルに先立った存在でした。古  
塚 正治はホテル論で、六甲山ホテルを「遊興地及び季節を  
主とするもの」で、大衆の利用の必要も説いています。  
六甲山ホテルは、山小屋風ホテルの先駆けとなるデザイン  
の大半が現存し、古塚 正治の数少ない現存作品で、阪神間  
モダニズムの象徴となる貴重な建物です。問題の保存活用に  
ついては、改修して耐震性を向上させることは十分可能な  
ので、所有者の保存意欲を期待して終わりました。



六甲山ホテル旧館2階

### 人工の美を生かす文化を大切にしたい

六甲山ホテル旧館に注目して、建築物そのものの魅力はも  
とより、建築の時代背景や建築家のビジョンが表現されてい  
ることを学んだ。名建築を評価して維持活用するには、それ  
を支える地域文化や愛着を持つ人々の存在が鍵になります。  
今あるものを大切に生かすことに尽力したいものです。

※詳しくは2ページをお読みください。

### 参加の感想 壺谷さん

建築設計を業とする私は、素晴らしい近代建築群が取り壊されている現状  
を憂いておりました。笠原先生は長きにわたり近代建築史を研究されており、  
村野藤吾氏の研究では、日本を代表する研究者の一人と言っても過言ではあ  
りません。本セミナーでは六甲山ホテル旧館を保存する  
意義を改めて認識できました。そして貴会やボランティア  
の方々の熱い思い、六甲山を愛する地域の皆様の笑顔  
に出会う事ができ、心が豊かになった一日でした。



【助成金をいただいている機関】順不同

大阪コミュニティ財団（東洋ゴムグループ環境保護基金）、  
コープこうべ環境基金、セブンイレブン記念財団